

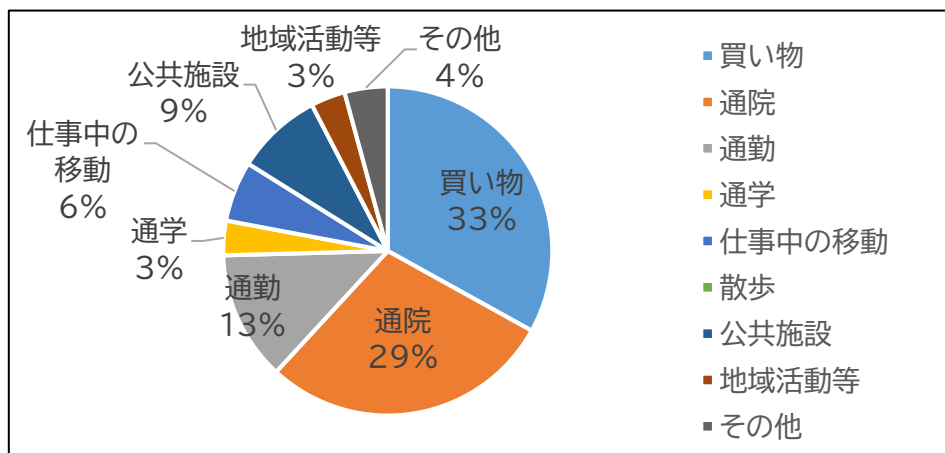
＜小平市地域公共交通に関するヒアリング調査のまとめ＞

1 コミュニティバス・コミュニティタクシー利用者

- (1) 実施時期：令和 4 年 9 月～ 1 1 月
- (2) 実施方法：主要なバス停留所及び市主催のイベント等でヒアリング
- (3) 調査項目：コミュニティバス・コミュニティタクシーの利用目的、利用状況、満足度、  
運行維持のための目標値の認知状況、運賃の見直し等
- (4) 回 答 数：118 件（にじバス 28 件、大沼ルート 25 件、栄町ルート 29 件、鈴木町ルート 36 件）
- (5) 設問内容

①コミュニティバス・コミュニティタクシーの主な利用目的

「買い物」が 33%と最も多く、次いで「通院」が 29%、「通勤」が 13%



②コミュニティバス・コミュニティタクシーの主な利用の頻度や曜日・時間帯

・主な利用の頻度

「週 1～2 日」が 35%と最も多く、次いで「月に数日」が 30%、「週 3～4 日」が 24%

・主な利用の曜日

「平日」93%、「土曜日」が 5%、「日曜日」が 2%

・行きの主な利用時間帯

「9～12 時」が 52%と最も多く、次いで「12～14 時」が 22%、「14～17 時」が 19%、  
行きは「利用しない」片道利用が 3%

・帰りの主な利用帯

「14～17 時」が 44%と最も多く、次いで「9～12 時」が 29%、「12～14 時」が 19%、  
帰りは「利用しない」片道利用が 4%

③コミュニティバス・コミュニティタクシーを利用しない場合の交通手段

「自転車」が 36%と最も多く、次いで「路線バス」が 20%、「徒歩」が 18%

④コミュニティバス・コミュニティタクシーの利用に対する満足度

「満足」が 51%と最も多く、次いで「やや満足」が 34%、「どちらでもない」が 13%

⑤不満の理由や要因（複数回答可）

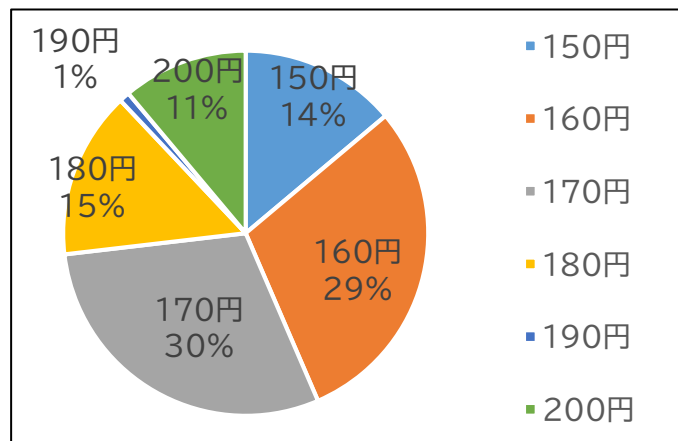
- ・「土日に運行していない」が36%と最も多く、次いで「運行便数が少ない」が29%、「停留所が遠い」が14%、「目的地に行かない」が10%
- ・不満の理由に「目的地に行かない」と答えた方の内訳  
行きたい場所・地域：市役所・中央公民館周辺エリア、新小平駅など  
そこに行く頻度：月に数日が最も多く、次いで年に数日

⑥コミュニティバス・コミュニティタクシー運行継続のための目標値や市の公費負担の認知度

- ・目標値（利用者数）  
「知っている」が14%、「知らない」が86%
- ・市の公費負担の認知度  
生活交通を維持するため、市が運行経費の赤字分を公費負担（補助金として支出）し、運行継続を支援していることについて、「知っている」が36%、「知らない」が64%  
「知っている」と回答した方のうち、「市の補助金額に上限があることを知っている」が23%

⑦運賃の見直し

- ・値上げについての考え  
コロナ禍における原油価格・物価高騰や乗務員不足等による人件費の上昇などの影響に伴う、運賃の値上げについては、「仕方がない」が74%と最も多く、次いで「不要」が13%、「必要」が6%
- ・値上げした場合の想定運賃  
「170円」が30%と最も多く、次いで「160円」が29%、「180円」が15%



⑧ヒアリング回答者の属性

・性別

	件数	構成比
男性	30	25%
女性	86	73%
その他	2	2%
全体	118	100%

・年齢

	件数	構成比
～19歳	4	3%
20～39歳	10	9%
40～59歳	16	14%
60～74歳	43	36%
75歳～	45	38%
全体	118	100%

・居住地

	件数	構成比
市内	96	81%
市外	18	15%
その他	4	4%
全体	118	100%

⑨その他（意見・要望等）

<コミュニティバス>

- ・中央公民館から帰るときが遠回りになる
- ・障がい者、高齢者割引をして欲しい
- ・市役所まで運行を延伸し欲しい
- ・公共施設をつなぐ路線が欲しい
- ・運行便数を増やして欲しい

<コミュニティタクシー>

<p><u>大沼ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乗降の際もう1段、段差が低いと良い</li> <li>・停留所が少し遠い</li> <li>・小金井街道を通る運行ルートの方が良い</li> <li>・座席が低い</li> <li>・運賃は路線バスと同じくらいが良い</li> </ul>	<p><u>栄町ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・車両内の通路が狭く、動き難く乗り難い</li> <li>・コミュニティタクシーが無いと外出が困難</li> <li>・歩けないのでコミタクがあると嬉しい</li> <li>・市内の東西の移動手段が少ない、不便</li> <li>・都営バス（梅70）の便数が少ない</li> </ul>
<p><u>鈴木町ルート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運賃を値上げしたら乗る回数が減るかも</li> <li>・停留所に椅子・屋根があると良い</li> <li>・交通系ICカードが使えると良い</li> <li>・朝と夕方の運行時間を延長して欲しい</li> </ul>	<p><u>共 通</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜・日曜日、祝日に運行して欲しい</li> <li>・座席が横向きのほうが良い</li> <li>・市役所まで運行ルートをつなげて欲しい</li> <li>・市役所や中央公民館に行き難い</li> </ul>

## 2 地域活動団体

(1) 実施日：第1回 令和4年12月7日、第2回 12月8日

(2) 実施方法：グループディスカッション

(3) 出席者：22人（第1回と第2回合計）

にじバス協議会、コミュニティタクシーを考える会、地域活動団体等

(4) 内 容

### テーマ1 利便性の向上を図るために、求められていること（課題や改善点など）

#### ①コミュニティバス・コミュニティタクシーについて

- ・土曜日、日曜日の運行（コミュニティタクシー） ※特に土曜日の運行  
→平日以外も外出する目的（通院・買い物・地域活動等）がある
- ・運行時間の延長（コミュニティタクシー） ※特に夕方の時間帯の延長  
→通勤・通学で利用できるように、仕事帰りの買い物にも利用希望あり
- ・運行ルートや停留所の見直し（コミュニティバス・コミュニティタクシー）  
→公共施設へのアクセス向上、新たな目的地や道路交通事情・交通安全等の状況変化への対応
- ・バリアフリー化、運行曜日や運行時間の改善  
→あらゆる世代が利用できるように、利用しやすいように車両の環境整備、運行システムの改善
- ・運行便数、運行間隔の見直し  
→利用実態に合わせた増便・減便の検討（利用の多い時間帯を増便し、少ない時間帯を減便）
- ・支払方法の簡素化、キャッシュレス化（コミュニティタクシー）
- ・乗り継ぎの割引運賃の設定  
→割引することで、利用者増につなげる

#### ②新たな公共交通の導入や運行ルートについて

- ・市役所、中央公民館周辺エリアへのアクセス向上  
→特に東西間の移動が不便、乗換えが不便（直通では行けない）、乗り継ぎが分かりにくい  
→公共施設への移動手段の確保、イベント時の臨時便の運行
- ・4つの地域（4つの運行ルート）をつなぐターミナルポイントの設置  
→コミュニティバス・コミュニティタクシー（3ルート）の乗り継ぎターミナル  
→JR（新小平駅・中央線駅）や路線バスへのアクセス向上  
→特に西武バス・都営バスの乗り継ぎや乗り換えをスムーズに  
→目的地まで1本で(乗換えなしで)行けない、行き難い
- ・青梅街道を活用して地域をつなぐ  
→青梅街道を有効活用し東西の地域をつなげる

- ・利用者に合わせた交通手段、小回りの利く交通手段
  - コミュニティバスやコミュニティタクシーが運行できない交通不便地域への対応
  - より柔軟にニーズに対応できるオンデマンド交通の導入（予約に応じて運行）
  - 運行ルートの細分化（1周を短く、運行時間の短縮化）
  - 東西地域の利用者層の違いの視点（高齢者、子育て世代、障がい者、年齢構成、利用目的など）

## テーマ2 運行を維持するために、必要なことやできること（利用促進の取組・収入の確保策など）

### ①広告等収入の確保について

- ・バス停留所に広告
- ・車内広告、車外広告（ラッピングやマグネットの貼付）
- ・サンクスクーポンのさらなる有効活用
- ・コミュニティバスやコミュニティタクシーの命名権の募集
- ・寄付金や協賛金の募集
- ・運行していない日の車両を有効活用して収入を確保
  - 土曜日、日曜日のイベント時に臨時便や貸切便として運行

### ②地域との連携・協力による利用促進活動について

- ・商店会等と連携した利用促進活動やイベントの実施
  - 地域の店舗とのコラボ（買い物すると運賃割引など）
  - 地域の人気店（パン屋・飲食店等）と連携したキャンペーンの実施
- ・運行していることを知ってもらうためのPR活動
  - 地域活動団体や地域のリーダーへの声掛け、子どもの絵の展示、まち歩きなどを実施
- ・大企業の施設・知的財産等の社会資源を活用（大企業との連携・協力）
- ・店舗前に停留所を設置

### ③利用しやすい公共交通について

- ・子どもや親子が利用したくなる、親しみや愛着を持ってもらうための取組
- ・4つの地域をさらに細分化し、待ち時間を短く（運行間隔の工夫）
- ・生活スタイルに合った運行日・運行時間
  - コミュニティバスの土曜日、日曜日ダイヤ設定（利用状況に合わせた時刻表）

### ④その他

- ・AIを活用した効率の良い乗り物やロボットの導入
- ・無人運転バスの導入 → 運行経費（人件費）の削減

### 3 運行事業者

(1) 実施日：令和4年10月28日、11月4日、11月9日

(2) 内 容

#### コミュニティバス：西武バス(株)

##### ①課題・改善点

###### ・ダイヤ改正について

平成19年5月の運行ルートを延伸した際、ダイヤ改正をせずに現在に至っているが、道路交通事情等の変化に伴い渋滞が増加し、運行の遅延が慢性化している。安全性や定時制を確保するため、実態に即したダイヤ改正が不可欠である。

平日と土曜日、日曜日で利用者数の格差が大きく、特に日曜日の夕方は、平日に比べて大幅に少ない。よって、経費削減のためにも、平日と休日のダイヤを分けることを検討する必要がある。

###### ・電気自動車（EV車）の導入について

環境に配慮した車両の導入が社会的にも求められている。現状、当市のコミュニティバスに対応できるEV車は製造されていないため、国産車（日野自動車）以外の車両を検討する必要がある。

EV車の導入にあたっては、充電ポートは運用面や効率性を考慮し、営業所に設置することが望ましく、同営業所で運行している市（東村山市・東大和市）と足並みを揃えて導入することで経費を抑えることができる。

##### ②運行経費等

###### ・燃料費高騰の影響について

コロナ禍における原油価格・物価高騰の影響を受け、2、3年前に比べ20～30円値上がりし、運行経費が増加している。

###### ・人件費の動向について

令和5年4月からバス運転者の労働時間の改善基準の改正が適用され、労働時間が減ることで、賃金を上げて乗務員を増やすことでの対応を考えているので、人件費に影響が出る可能性が高い。

###### ・障がい者割引について

西武バスで運行しているコミュニティバスは、小平市以外全て対応している。路線バスも全て、同様に対応している。運賃のあり方と合わせて、検討して欲しい。

令和5年度から、障がい者割引の交通系ICカードに対応した運賃箱に入れ替えるため、小平市は他市とは別の運賃システムに修正する必要がある。

###### ・運賃について

コロナ禍において、利用者数が減少し、今後元に戻る見込みは非常に低い。一方、運行経費が増加していることから、一定額の運賃値上げは、避けられないと考えている。

路線バスと競合している運行ルートもあり、本来、同じサービスなら、路線バスと同じ運賃水準にすべきである。小金井市（180円）、朝霞市、新座市のコミュニティバスでは、運賃を上げる予定。

###### ・バスロケーションシステムの導入について

同一システムを、近隣自治体と広域で利用できれば望ましい。

## コミュニティタクシー：トーショー交通(株)・小平交通(有)

### ①課題・改善点

#### ・利用状況について

車椅子の乗降操作が難しく、乗降に時間を要してしまう。また、利用者は高齢者が増えており、乗降が困難だったり、買物の荷物が多かったり、乗降に時間が掛かる。

#### ・運行について

狭い住宅地や狭隘道路を運行するため、歩行者や自転車が広がっていると運行に支障が生じることがある。

乗務員との連絡手段が携帯電話のため、運転中の対応が難しい。無線やGPSがあれば、事故があった場合など、早目に対応することができる。

#### ・土曜日、日曜日の運行について

利用者から要望が多くあることは、運行事業者として認識している。平日と同様に土曜日を運行することは、現行体制では対応が難しいが、半日なら可能かもしれない。日曜日については、業界全体で乗務員不足となっていることから、乗務員の確保は困難な状況である。

#### ・朝夕の運行時間の延長について

現状、15時から17時の利用者は増加しているが、冬は17時以降の利用が少なく、朝一の便は2～4人の時が多い状況である。

運行時間の延長については、利用状況を適正に見極める必要がある。

#### ・運行ルートの見直しについて

地域のニーズや利用状況、安全確保を踏まえ、検討することが重要である。

### ②運行経費等

#### ・燃料費高騰の影響について

コロナ禍における原油価格・物価高騰の影響を受け、2、3年前に比べ20～30円値上がりし、運行経費が増加している。

#### ・人件費の動向について

乗務員不足や労働条件の見直しもあり、乗務員募集の際に引き上げている状況である。